

発達障害児者の性暴力被害防ぐ

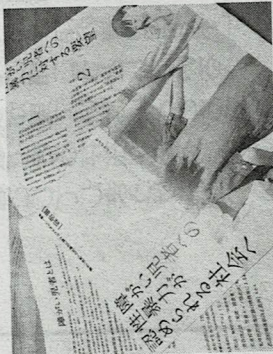
NPOの調査報告から



調査結果の報告会で。左から中野さん、岩田さん、明治大卒4年の菊地悦子さん

性暴力をなくすために活動するNPO法人しあわせなみだでは、発達障害児者の性暴力被害についてアンケート調査を実施しました。おとなの発達障害当事者のピアサポート「Necco（ネッコ）」（東京都新宿区）の利用者が対象で、32人が回答しました。

7割（23人）が「望まない人に性的な部分を触



調査結果や当事者インタビューなどが掲載された報告書（NPO法人しあわせなみだ）

られる「望まない人に裸や性器を撮影される」など何らかの性暴力を経験し、11人は複数の被害を経験していました。

また「望まない人にセックスされる」経験があったのは22%にのぼり、内閣府が行った「男女間における暴力に関する調査」（2017年）で「無理やり性交等をされた経験がある」と訴えた人の割合の4.9%より高くなっています。

しあわせなみだが行った当事者へのインタビューでは、小学生の時に知らない男性に体を触られる、中学の同級生に胸を触られるなどの被害をうけたという30代の女性が「人間として扱われない感じがした」と語ってい

ます。またもともと自己肯定感もあまり高くないので、NOって言えない。「言える立場じゃない」としているのが潜在意識にある」と話しています。

調査から見た現状について先月、東京で報告会が開かれました。結果を分析した東洋大学助教の岩田千穂紀さん（障害者福祉）は「限られた人数なので発達障害者全般が被害にあいやすいと結論は出せませんが、傾向が高い可能性があるといえます」と話します。

性暴力被害にあう要因の多くは、自己肯定感の低さ、孤立感からくる依存の高さ、相手の気持ちを読み取ることが難しいなどの特性に関係していると考えられると指摘しました。

性暴力を防ぐために考えたいこととして「被害にあった人は決して悪くない」として「最も悪く責任があるのは加害者であり、被害の現状は発達障害をめぐる社会のあり方の問題と関わっている」と話しました。

しあわせなみだでは、発達障害を含めた障害児者の性被害を防ぐために、障害児者に関わる性暴力を法律で定義し、対策を進めるよう求めています。性犯罪規定で障害児者が法律に明文化されている国もあります。代表の中野宏美さんは「声をあげづらい障害児者の性暴力をなくしていきたい」と話します。